

畜産みやぎ

発行所
 仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号
 法人 宮城県畜産協会
 電話 022-298-8473

編集発行人
 大堀 哲

印刷所
 (株)東北プリント



平成16年度畜産物安全・安定供給相互理解体制推進事業交流会
 (登米市豊里町)

もくじ

CONTENTS

平成17年度畜産施策の概要と 新規事業の紹介 2・3	<実践大生校生の抱負> 7
中田町有機センター 4・5	社団法人 宮城県畜産協会 組織改編のお知らせ 8
<畜試便り> 牛受精卵移植における 受胎率向上のヒント 6	<人の動き> 9・10・11・12
<衛生便り> 豚の浮腫病について 7	

みやぎの
 畜産情報
 発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>
 Eメール mygchiku@mwnet.or.jp

平成17年度畜産施策の概要と新規事業の紹介

宮城県産業経済部畜産課

I 基本方針

本県の畜産は、食生活の多様化等を背景とした畜産物の需要に支えられ、農業産出額の3割を占めるまでに成長し畜産主産県としての位置を確立しています。

また、畜産物の生産活動を通じた環境の保全という本来的な役割に加え、体験や交流を通じた豊かな人間性の育成といった役割も担いながら、農業の基幹部門として重要な役割を果たしています。

しかしながら、平成13年9月の牛海綿状脳症(BSE)の発生以降、度重なる食品の不正表示問題など、食品の安全や品質に対する信頼を根底から揺るがす事態を招いています。さらには米国でのBSE発生による米国産牛肉の輸入禁止、国内での高病原性鳥インフルエンザの発生など、「食」に対する消費者の関心が一層高まる中で、県民に信頼される畜産物の生産体制を築くことが急務となっています。また、農業従事者の高齢化や担い手不足による生産基盤の弱体化、FTA交渉等国際化の進展による低コスト化への対応、環境への負荷軽減や家畜衛生対策の強化も求められています。

県では、「みやぎ食と農の県民条例」(平成12年7月10日公布)及び「みやぎ食の安全安心推進条例」(平成16年3月23日公布)に基づき、農業・農村振興の目標や食の安全安心に係る基本方針及びアクションプランを策定して関係施策を総合的に推進しております。

平成17年度においては、本県が畜産主産地としてより一層競争力を強化するための総合的な指針として、「宮城県酪農及び肉用牛生産近代化計画」及び「宮城県家畜改良増殖計画」等の見直しを行います。

具体的な施策としては、牛海綿状脳症対策特別措置法に定められた24ヶ月齢以上の死亡牛の全頭検査を引き続き実施するとともに、BSEの発生により経済的に影響を受けた畜産農家に対する支援対策を継続します。また、耕畜連携も含めた自給飼料の生産推進に取り組むとともに、畜産環境対策としては、簡易処理で家畜排せつ物処理の対応をしている農家の恒久的な施設化を進めます。さらに、肉質と肉量を兼備した肉用牛生産体制を確立するとともに、ゆとりある効率的な酪農経営を目指した牛群の改良やヘルパー制度の充実を図ります。あわせて、系統豚「しもふりレッド」の供給体制を確立するとともに、新たなランドレース種の系統造成を引き続き実施します。

なお、これら施策の展開に当たっては、「新たな国際化に対応できる 足腰の強い宮城の畜産」をスローガンに、次の6項目を重点施策に掲げ、国、市町村、畜産関係団体との連携を一層強化し、幅広い視点から総合的な施策を展開してまいります。

- 1 畜産物の安心・安全性の確保と生産支援
- 2 21世紀みやぎの肉用牛生産の振興
- 3 先進的な養豚経営の振興
- 4 ゆとりある生産性の高い酪農経営の振興
- 5 飼料自給率の向上と畜産環境の改善
- 6 新たな畜産技術の開発と活用

II 平成17年度畜産課当初予算一覧表

科目・事業名	本年度予算額(千円)
I 畜産総務費	679,005
II 畜産振興費	2,332,520
1 家畜改良増殖事業費	61,399
2 家畜改良対策事業費	3,529
3 畜産高度生産技術実用化促進事業費	8,347
4 畜産流通対策事業費	88,894
5 地域畜産振興事業費	8,089
6 畜産環境総合整備事業費	975,813
7 みやぎの快適畜産総合対策事業費	12,936
8 畜産団体等育成強化事業費	291,547
9 公共育成牧場対策費	102,689
10 草地開発整備事業費	401,684
11 自給飼料生産対策事業費	9,575
12 流通飼料対策事業費	2,501
13 学校給食用牛乳供給事業費	1,486
14 生乳流通改善対策事業費	23,805
15 酪農経営体質強化対策事業費	437
16 畜産振興総合対策推進事業費	577
17 養豚振興総合対策事業費	1,794
18 21世紀みやぎの牛づくり活性化事業費	137,418
19 新みやぎのアグリビジネス戦略経営体育成支援事業	200,000
III 家畜保健衛生費	122,541
1 家畜伝染病予防事業費	58,653
2 家畜保健衛生費	31,251
3 家畜衛生事業費	32,637
合 計	3,134,066

III 平成17年度の主な新規事業

1 新みやぎのアグリビジネス戦略経営体育成支援事業

既存の生産・流通体制にとらわれず、積極的に食産業等民間企業と連携した「みやぎらしいアグリビジネス経営体」の起業を促進し、本県農業粗生産額の上昇を図るとともに、企業経営型による雇用の創出を図り、本県経済産業としての農業の再生を推進するために、必要な施設・機械の整備に要する費用に対して補助するもの。

- (1) 事業主体 県内に本社を有する株式会社、有限会社、合名会社、合資会社、農事組合法人
- (2) 事業年度 平成17年度
- (3) 17年度予算額 200,000千円
- (4) 事業内容

アグリビジネス戦略計画の達成に必要な機械や施設等の取得又は整備に対し、事業費の1/2以内(一部1/3以内)を助成する。

(畜産振興班 山田 智子)

中田町有機センター

登米市産業経済部

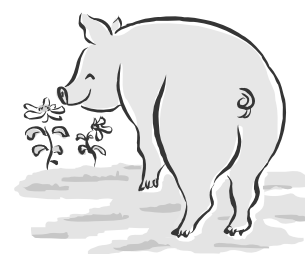
中田町は宮城県の北部、岩手県境に位置し東西約9.6km、南北13.8km、総面積62.23km²の北上川西側に扇状に開けており、農業を基幹産業としております。

近年、町内の畜産農家戸数は減少傾向にあります。町内の飼養頭羽数自体はほぼ横ばいという状況にあります。これは言うまでもなく農家一戸当たりの飼養頭数が増え経営の傾向として大規模化が進んでいるということだと思います。この状況に伴い、畜産農家から発生する家畜排せつ物の量が増え、水質汚濁及び悪臭等により生活環境まで脅かす事態になってきたのは言うまでもありません。そんな中、本町の有機センターは、平成11年1月にJAみやぎ登米中田町内畜産関係団体から、「有機センター整備に関する要望書」が提出され、町でも今後の畜産経営環境の整備、畜産振興及び資源循環型農業推進という観点においても是非整備しなければならない施設ということで、平成12年12月議会定例会において設置について承認され本格的に設置に向け取り組んできました。事業としては、資源リサイクル畜産環境整備事業により、平成13年は計画策定業務、施設整備については平成14年度から16年度の3ヵ年で(社)宮城県農業公社を事業主体として整備してきました。

家畜糞尿の処理施設というのはどうしても「臭い」「汚い」といった迷惑施設と思われてしまいます。当センターにおいても例外ではなく設置場所については、何回となく集落説明会を開催し近隣住民の方々に理解をお願い致しました。説明会において特に「臭い」ということについては厳しい意見もありました。そのようなこともあり当センターでは特に臭気対策に重点をおくことになりました。例をあげれば搬入口には施設内の臭気を外には出さないよう、センサーで車を感知し自動で開閉する高速自動シャッターを設置し、脱臭設備も微生物脱臭(ロックウール)を採用しました。また、いくら優秀な施設を建設しても効率的な施設運営をするためには、計画的な搬入をしなければなりません。そのため平成16年7月7日に利用者組合が設立されました。この組合は搬入の調整だけでなく、完成した製品堆肥を散布する散布組織も視野にいたした今後の活動が期待されております。施設の管理運営については、平成16年9月議会定例会において指定管理者制度により、みやぎ登米農業協同組合に委託することに決定し、平成16年11月1日の「家畜排せつ物法」の完全施行前、同年10月22日に無事中田町有機センター開所式を迎えることができました。その後は11月までは試運転期間ということで搬入量の制限を行い、12月からは本格的に稼働し現在に至っております。

今後は家畜排せつ物の処理施設としてだけではなく、生産される堆肥の利用による地力増進を図るための土づくり拠点施設、そして町・農協・利用者組合・住民が一体となった資源循環型農業の発信基地となることを期待しております。

(なお、中田町は平成17年4月より登米市に移行いたしました。)



〈畜試便り〉

牛受精卵移植における受胎率向上のヒント

宮城県畜産試験場

受精卵移植における受胎率は、受卵牛の状態により左右されます。卵巣の黄体から分泌されるプロジェステロン (P) は、受精卵の着床にとって重要なホルモンですが、分娩後、受卵牛の飼養 (栄養) 管理が適切でないと必要な量が分泌されません。そのような場合でも、市販されているホルモン剤を投与することにより、Pが上昇し、受胎率が改善されることが分かってきました。hCG (ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン) は、ヒトの胎盤から分泌されるホルモンですが、黄体の形成を促進し、Pの分泌を促す作用があります。発情後7日の受卵牛にhCG1,500単位を投与した後に受精卵を移植した場合、Pが上昇し (図1)、受胎率が10%以上改善されることが明らかになりました (表1)。

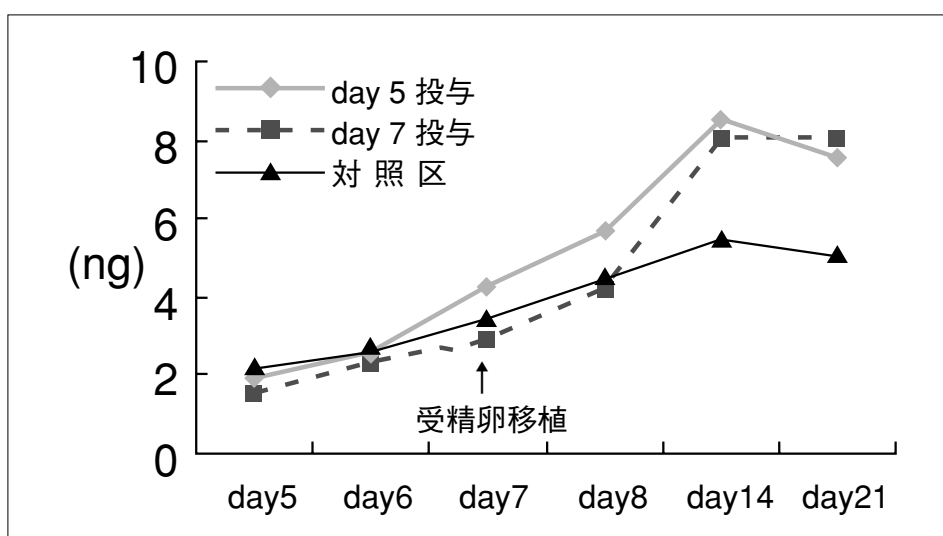


図1 hCGを投与した場合のPの動態

hCGは注射により投与するものであり、考え方としては治療です。適切な飼養管理を行い、良い黄体を形成させることが受胎率向上のための基本です。なお、hCGは要指示動物用医薬品ですので、獣医師に処方してもらう必要があります。

表1 hCGを投与した場合の受胎率

	5日目投与	7日目投与	対照区
受胎率	50.9% (57/112)	55.6% (65/117) a	42.6% (49/115) b

a, b : p < 0.05

(酪農肉牛部 高田 直和)

〈衛生便り〉

豚の浮腫病について

登米家畜保健衛生所

豚の浮腫病はよく知られている病気ですが、最近全国的に発生が増加しているようです。原因は毒素を産成する大腸菌であり、離乳後1～2週齢の子豚に好発します。一般的には始めに食欲不振、元気消失が見られ、次にふらつきや痙攣等の神経症状が現れます。浮腫は眼の周囲や耳翼などに見られますが、原因の大腸菌の種類によっては浮腫が目立たない場合もあったり、下痢が見られることもあります。元気で発育のよい子豚が急死する例も多く見られます。

浮腫病のやっかいなところとして、①発症豚を隔離しても別の豚房で発生がみられることがある、②発症豚に抗生物質治療をすると、大腸菌が壊れて毒素が一気に放出されるためかえって症状が悪化する、③一度発生が落ち着いても再発することが多く、長期化することがある、などが挙げられます。

対策としては、上記①は原因として母豚汚染による垂直感染が考えられるため、分娩舎へ移動する前の母豚消毒や投薬・生菌剤投与、②の理由から発症豚の治療というよりも未発症豚の予防的対策、③は大腸菌が飼養環境中に常在していることが原因と考えられるので、豚舎の洗浄・消毒や豚舎ごとの踏込消毒槽の設置、などですが、対策に時間がかかることもしばしばです。本病を長期化させないためには、まず衛生的な飼養管理により汚染の拡大を防ぎ、またむやみに薬剤を使うよりも、検査により病原大腸菌に有効な薬剤を早めに選択することも大切です。日常管理のなかで異変に気付いたら、かかりつけの獣医師または各家畜保健衛生所・各地方振興事務所畜産振興部までご相談ください。

(防疫班 長内 利佳)

〈実践大学校生の抱負〉

「畜産学部の仲間たちと知り合えて」

宮城県農業実践大学校畜産学部

1年 千葉あすみ



最近、私にとってとても重要で嬉しいことがありました。「仲間とはなにか。」について本当の意味を知ることが出来たと思えることです。

実践大学校畜産学部に入學し、畜産に関しての知識を学び始め、寮生活で一緒に暮らすことで濃密な人との係わり合いを学びました。

私は、いつも自分に自信が持てずに自分を守ろうとして本心を隠す癖があります。そして自分を出さないことが大人であると思っていました。

そんな私を見捨てないで真正面からぶつかってきてくれたのが今の学部の仲間たちです。寮生活での様々な体験を通して、「こんなにまで自分より相手のことを想う人たちはいない。これが仲間というものなのか。」と感じさせられました。入学してからの1年間を振り返ってみると、私がどれだけ皆に大事にされているのか改めて思います。そして本当に皆のことを好きになっていました。

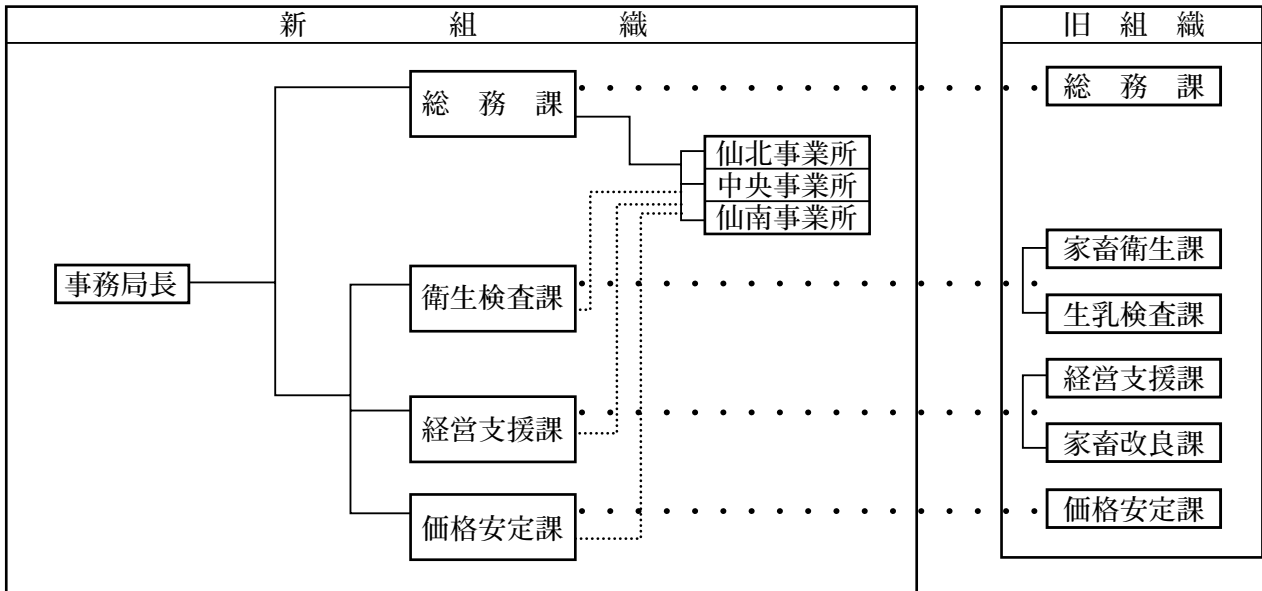
1年間、学部の仲間と寝食をともに暮らしてみて、本心を隠す癖は単に意地をはって大人に見せかけているだけの子供であると気づかされたのです。

卒業後、酪農に携わって行く上でも人との係わり合いは必ず生じます。だから仲間を大切に、力になれるように頑張っていきたいと思っています。

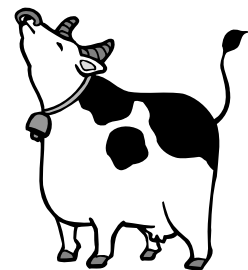
組織改編のお知らせ

社団法人 宮城県畜産協会

この度、4月1日より下記のとおり組織改編を行いましたので、お知らせします。なお、旧課の電話番号・FAX番号に変更はございません。



- ・ 総務課 TEL 022-298-8471 FAX 022-293-2311
- ・ 衛生検査課 (衛生) TEL 022-298-8472
 (検査) { TEL 022-298-9750 FAX 022-293-2311
 TEL 022-257-0006
- ・ 経営支援課 TEL 022-298-8473 (精液) TEL 022-298-8476
 FAX 022-292-5395
- ・ 価格安定課 (子牛) TEL 022-298-8474
 (マルキン) TEL 022-298-8475
 FAX 022-257-4315



〈人の動き〉

宮城県

退職 (3月31日付け)	畜産試験場副参事兼次長 (総括担当兼班長)	西堀修二
	産業経済部畜産課副参事兼課長補佐 (総括担当)	高橋清
	産業経済部畜産課主事 (事務補主任)	浅野敏子
	迫家畜保健衛生所兼迫地方振興事務所	西形葉子

(平成17年4月1日付け)

新	旧	氏名
産業経済部畜産課技術副参事兼技術補佐 (総括担当) 兼環境生活部食と暮らしの安全推進課の安全安心推進員	築館地方振興事務所畜産振興部次長 (総括担当) (食の安全安心担当) 兼迫家畜保健衛生所	菊田 正信
産業経済部畜産課副参事兼課長補佐 (総括担当)	公立学校事務室長	宗像 丈營
産業経済部畜産課技術補佐 (班長)	仙台地方振興事務所農業振興部技術主幹 (班長) 兼地方振興部企画員兼仙台地域農業改良普及センター	中鉢 正信
産業経済部畜産課技術補佐 (班長)	仙台家畜保健衛生所技術次長 (班長) 兼仙台地方振興事務所地方振興部企画員	松田 悦子
産業経済部畜産課長補佐	迫地方振興事務所農業振興部次長	瀬戸 重幸
産業経済部畜産課主任主査	東北歴史博物館主任主査兼多賀城跡調査研究所	西條 久代
大河原家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼大河原地方振興事務所	石巻地方振興事務所畜産振興部技術主幹 (班長) 兼地方振興部企画員兼仙台家畜保健衛生所	大場 実
大河原家畜保健衛生所主任主査兼大河原地方振興事務所	仙台家畜保健衛生所主任主査兼仙台地方振興事務所	石澤 勝嘉
大河原家畜保健衛生所技術主査兼大河原地方振興事務所	産業経済部畜産課技術主査	安達 裕美
仙台家畜保健衛生所技術副参事兼次長 (総括担当) (食の安全安心担当) 兼仙台地方振興事務所	迫家畜保健衛生所次長 (総括担当) (食の安全安心担当) 兼迫地方振興事務所	佐藤 尚
仙台家畜保健衛生所技術主幹兼仙台地方振興事務所	古川地方振興事務所農業振興部技術主幹兼小牛田地域農業改良普及センター	鈴木 雄
石巻地方振興事務所畜産振興部技術次長 (班長) 兼地方振興部企画員兼仙台家畜保健衛生所	迫家畜保健衛生所技術主幹 (班長) 兼迫地方振興事務所地方振興部企画員	山田 稲生
仙台家畜保健衛生所主任主査兼仙台地方振興事務所	迫家畜保健衛生所主任主査兼迫地方振興事務所	西 清志
仙台家畜保健衛生所技術主幹兼仙台地方振興事務所	築館地方振興事務所畜産振興部技術主幹兼迫家畜保健衛生所	大久 範幸
仙台家畜保健衛生所主査	工業用水道事務所主査	平間美智子
仙台家畜保健衛生所兼仙台地方振興事務所	大河原家畜保健衛生所兼大河原地方振興事務所	松田 里子
古川家畜保健衛生所主任主査兼古川地方振興事務所	気仙沼地方振興事務所主任主査兼本吉地域農業改良普及センター	大沼 篤
登米家畜保健衛生所所長兼登米地方振興事務所畜産振興部長	築館地方振興事務所畜産振興部長兼迫家畜保健衛生所次長	峯岸 こう
栗原地方振興事務所畜産振興部長兼登米家畜保健衛生所次長	仙台家畜保健衛生所技術副参事兼次長 (総括担当) (食の安全安心担当) 兼仙台地方振興事務所	大久 昇悦
栗原地方振興事務所畜産振興部次長 (総括担当) (食の安全安心担当) 兼登米家畜保健衛生所	迫地方振興事務所農業振興部技術次長 (班長) 兼地方振興部企画員	庄司真知雄
登米家畜保健衛生所次長 (総括担当) (食の安全安心担当) 兼登米地方振興事務所	産業経済部畜産課技術補佐 (班長)	横山 亮一
栗原地方振興事務所畜産振興部技術主幹 (班長) 兼地方振興部企画員兼登米家畜保健衛生所	畜産試験場主任研究員兼食肉衛生検査所	柴崎 卓也

(平成17年4月1日付け)

新	旧	氏名
登米家畜保健衛生所技術主幹(班長)兼登米地方振興事務所地方振興部企画員	環境生活部食と暮らしの安全推進課技術主幹	佐々木吉一
栗原地方振興事務所技術主幹兼登米家畜保健衛生所	仙台家畜保健衛生所主任主査兼仙台地方振興事務所	西川 彰子
登米家畜保健衛生所主任主査兼登米地方振興事務所	食肉衛生検査所主任主査	建入 茂樹
登米家畜保健衛生所技術主査兼登米地方振興事務所	仙台家畜保健衛生所技術主査兼仙台地方振興事務所	小寺 文
登米家畜保健衛生所技術主査兼登米地方振興事務所	仙台地方振興事務所技術主査兼亶理地域農業改良普及センター	清水 俊郎
登米家畜保健衛生所兼登米地方振興事務所	新規採用	高野 泰司
畜産試験場種豚家さん部長	産業経済部畜産課技術副参事兼技術補佐(総括担当)兼環境生活部食と暮らしの安全推進課食の安全安心推進員	佐藤 実
畜産試験場副参事兼次長(総括担当兼班長)	循環器・呼吸器病センター事務局副参事兼次長(総括担当)	今宮 新一
畜産試験場主任研究員	産業経済部研究開発推進課技術主幹	日野 義彦
畜産試験場上席主任研究員	築館地方振興事務所畜産振興部技術次長(班長)兼地方振興部企画員兼迫家畜保健衛生所	小堤 知行
畜産試験場上席主任研究員兼食肉衛生検査所	大河原家畜保健衛生所技術次長(班長)兼大河原地方振興事務所	沼邊 孝
畜産試験場主任研究員	古川家畜保健衛生所主任主査兼古川地方振興事務所	天野 祐敏
畜産試験場主査	築館土木事務所主査	加藤 孝徳
産業経済部農業振興課技術補佐(畜産指導担当)兼畜産試験場	畜産試験場上席主任研究員	鹿野 裕志
農業実践大学校畜産学部長	畜産試験場上席主任研究員	佐藤 章
仙台地方振興事務所農業振興部次長(総括担当)(食の安全安心担当)兼仙台農業改良普及センター次長(総括担当)	産業経済部畜産課技術補佐(班長)	高瀬 修
産業経済部研究開発推進課技術主幹	畜産試験場副主任研究員	及川 克徳
石巻保健福祉事務所地域保健福祉部主幹	産業経済部畜産課主幹	斎 澄夫
気仙沼地方振興事務所技術主査兼本吉農業改良普及センター	迫家畜保健衛生所技術主査兼迫地方振興事務所	阿部 忠宏
食肉衛生検査所主任主査	迫家畜保健衛生所主任主査兼迫地方振興事務所	岡崎 紀之
食肉衛生検査所主任主査	古川家畜保健衛生所主任主査兼古川地方振興事務所	高橋 伸和
産業経済部団体指導検査課主任主査	畜産試験場主査	遠藤 善範
食肉衛生検査所	大河原家畜保健衛生所兼大河原地方振興事務所	二瓶 友美

全国農業協同組合宮城県本部

(平成17年4月1日付け)

新	旧	氏名
管理部付(社)宮城県畜産協会出向	畜産課	金田 俊一
畜産課	畜産課兼(社)宮城県畜産協会仙北事業所駐在	菅原 金一
畜産課	管理部付(株)農協情報センター出向	西城 修
畜産課	管理部付(社)宮城県畜産協会出向	伊藤 信行
仙南畜産事業所長	畜産課	太田 正利
畜産課	畜産課兼仙台食肉事務所	高川 信幸
畜産課	新規採用	伊藤千恵子
農業機械課	畜産課	内海 聡

宮城県農業共済組合連合会

退職(3月31日付け) 中央家畜診療センター庶務課長補佐
家畜診療研修所長

佐野小夜子
氏家賢一

(平成17年4月1日付け)

新	旧	氏名
家畜部長	県北家畜診療センター所長	武蔵 昌文
家畜部家畜課長	事業部農産課長補佐	古内 稔悦
家畜部家畜課長補佐	総務部総務課長補佐	遠藤 和浩
家畜部家畜課長補佐	事業部家畜課長補佐	齋藤 節子
家畜部家畜課長補佐	事業部農機家具課長補佐	一條 誠
家畜部家畜課長補佐	事業部家畜課長補佐	紺野 浩一
家畜部家畜課診療指導係長	事業部家畜課診療指導係長	須藤 聡
家畜診療研修所長兼中央家畜診療センター	中央家畜診療センター次長	沼津 敬治
県南家畜診療センター所長	事業部次長	佐藤 繁
県北家畜診療センター所長	県南家畜診療センター所長	千葉 正寛
家畜診療研修所次長兼庶務課長兼中央家畜診療センター	県南家畜診療センター次長	渡辺 昭夫
県南家畜診療センター次長	県北家畜診療センター次長	熊谷 敏信
中央家畜診療センター次長兼庶務課長	家畜診療研修所次長兼庶務課長	木村 有一
県北家畜診療センター次長	中央家畜診療センター庶務課長	菅野 芳男
県北家畜診療センター損防課長補佐	県南家畜診療センター損防課長補佐	高橋 孝幸
中央家畜診療センター損防課技術主査	家畜診療研修所指導課技術主査	早坂 久範
家畜診療研修所指導課技師兼中央家畜診療センター	県北家畜診療センター診療課技師	高畑 幸子
家畜診療研修所技師	新規採用	加納 茂太
家畜診療研修所技師	新規採用	福田 達也
家畜診療研修所技師	新規採用	金澤 朋美
中央家畜診療センター嘱託	中央家畜診療センター課長補佐	佐野小夜子
総務部総務課長補佐	事業部家畜課長補佐	小林 繁男
事業部建物課引受係長	事業部家畜課事故係長	黒田 寿隆

社団法人 宮城県農業公社

退職(3月31日付け) 白石牧場技術主査
白石牧場技術主査
岩出山牧場技術主査

阿部勝利
佐藤公男
西塚俊幸

(平成17年4月1日付け)

新	旧	氏名
牡鹿牧場主任主査	岩出山牧場主任主査	門脇 秀二
事業所主査	岩出山牧場主査兼事業所	熊谷 浩子

社団法人 宮城県畜産協会

退職（3月31日付け） 参事兼価格安定課長

高橋 正義

(平成17年4月1日付け)

新	旧	氏名
事務局長	事務局長兼家畜衛生課長	大橋 義信
総務課主事	新規採用	山崎 哲
総務課嘱託	仙南事業所	渡邊 恵子
経営支援課長補佐（出向）	全国農業協同組合宮城県本部畜産課	金田 俊一
経営支援課主事	家畜改良課主事	北谷せつよ
経営支援課	新規採用	柴田耕太郎
衛生検査課長	生乳検査課長	半田 好昭
衛生検査課主事	総務課主事	猪狩 節子
衛生検査課技師	家畜衛生課技師	庄司 清文
衛生検査課技師	生乳検査課技師	伊藤 利樹
衛生検査課嘱託	生乳検査課嘱託	堀内 政昭
衛生検査課嘱託	家畜衛生課嘱託	吉岡耕三郎
価格安定課長心得	価格安定課主任主査	大宮 勝廣
価格安定課主事	総務課主事	三品 清美
価格安定課	新規採用	安田 英司
中央事業所長	家畜改良課長	菊池 安德
仙南事業所主事	総務課主事	大場 静子

